

慶応二年二月二十五日より慶応二年二月廿七日まで

P8310569 right

廿五日卯 雨

本夕平山(謙)芸州、表出帆に付、告別に行き子壘贈りまた贈らる、且加納屋次郎作、東下遅延の事情

山口(駿)、小栗(上)、駒井(甲)へ通達分の義、合原(左)へ、石野(□)拔□の義、糟屋(□)をも加えて伝言の義並

其身東帰り計等咄有し、同道出 殿、小時計、小遠望鏡、ヒストル箱入玉とも出雲守殿此命に付、御内覧に奉り候、御条約面沿革取調確定の義、展観場御使人物英仏へ被差添え候使節の義、御沙汰により立合同評議いたし伊賀守殿へ建白、条約沿革は東下の上取調の積り仏英両使節は銘の見込はと、もの名前入札の積(江戸表にても同様入札いたし、当地へ廻し様可申上旨也)右人員は何人程にて可然や

自分限りの見込、御尋有し、随従書記官老人か兩人、通詞老人召せ人数は其のもの見込次第

申上る、京地詰大目付川勝(作)へ下坂の命有し間、着次第同人へ此度の条件縷述いたし可申

P8310569 left

猶同人より一橋府へ建言の御取計也、自分上京御直に建言不被仰付は、御深趣有し趣也、多賀外

より鰻□一折贈り越旨、文通に添有し

廿六日辰 雨意漸に晴

御旗同心清水(藤)来問う久について面す、牛込にて面晤せし旧縁有し趣を以、御代官手附

小原恵五郎来り

面す、出 殿、平謙より昨日談□とて小田切(綱)の義頼越す、前田(右)来り名刺を扱せし旨

元中小姓

金之助聞に来り、粕平一塊持来、小菊(五)為取

廿七日巳 晴

出 殿、昨来の粕平を持きせり、内海(多)より酒一壘(五升□)贈り来る、小原(忠)よりも同一

小樽(六わり)

贈り来る、入本山本(文)来り、談話す

(内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。